

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

演習のテーマは、「ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメント」である。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような事業戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導き出す手法を身につけるのが目標である。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。PBLで考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。特に古民家再生による宿泊業に焦点を当てホスピタリティの価値、労働生産性向上を踏まえ地域活性化の現状を理解する。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から課題解決にむけて考察する。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 地域振興と古民家再生を考える(1)
- 3 地域振興と古民家再生を考える(2)
- 4 地域と観光の市場環境(マクロ環境)
- 5 ビジネスフレームワーク(5 focusの理解)
- 6 ビジネスフレームワーク(SegmentationとTargettingの理解)
- 7 従業員エンゲージメントと労働生産性
- 8 組織論(多元型と進化した)
- 9 フィールドワーク準備
- 10 フィールドワーク準備
- 11 フィールドワーク準備
- 12 フィールドワーク実施
- 13 フィールドワークのまとめ
- 14 フィールドワークのまとめ
- 15 フィールドワークのまとめ

授業の方法

PBL (Project Based Learning) によるフィールドワークの実践。

座学と古民家再生の宿泊事業案件を調査する。レポートにまとめポイントをとめる。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法、その他

事前学習課題50%
発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

下記のいずれかを購入すること
浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社
*このテキストは演習Ⅲ・Ⅳでも使用する。

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

演習は 人 人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習Ⅰの受講と合わせて観光マーケティング論、ホスピタリティマネジメントを受講すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内で紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	g		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 インTRODクダクシヨク
- 2 New Yorkers
- 3 New Yorkers
- 4 New Yorkers
- 5 New Yorkers
- 6 New Yorkers
- 7 New Yorkers: presentation
- 8 Hamlet
- 9 Hamlet
- 10 Hamlet
- 11 Hamlet
- 12 Hamlet
- 13 Hamlet: interpretation
- 14 Hamlet: interpretation
- 15 Hamlet: presentation

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。PBLを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

- 1、ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をレポートやPowerPointにまとめプレゼンテーションをおこなう。
- 2、各種観光関連企画コンテスト、例えば閑空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画への応募にチャレンジする。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 3 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 4 ビジネスフレームワーク復習
- 5 ビジネスフレームワーク復習
- 6 ビジネスフレームワーク復習
- 7 海外旅行プランの立案
市場環境とターゲット
- 8 海外旅行プラン
セグメントとプランニング
- 9 海外旅行プランPowerPointでの発表①
- 10 海外旅行プランPowerPointでの発表②
- 11 海外旅行プランのPowerPointでの発表③
- 12 研究課題(先行研究の発表)①
- 13 研究課題(先行研究の発表)②
- 14 研究課題(先行研究の発表)③
- 15 まとめ

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法、その他

課題50%、発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

演習Ⅰと同じ

参考図書

内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めない。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、観光マーケティング論・ホスピタリティマネジメントを履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめ。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に課題設定することを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語の音声・日本語の音声の特徴について理論的に理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込み調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析し、考察をする。またテキスト、文献等から得られた情報とを基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込み、発表・ディスカッションを通して研究を進める。

授業計画

- 1 卒業研究の進め方
- 2 日本語話者が話す英語の音声分析①
- 3 日本語話者が話す英語の音声分析②
- 4 日本語話者が話す英語の音声分析③
- 5 日本語話者が話す英語の音声分析④
- 6 日本語話者が話す英語の音声分析⑤
- 6 発表とディスカッション 1 1
- 7 発表とディスカッション 1 2
- 8 文献調査と分析①
- 9 文献調査と分析②
- 10 文献調査と分析③
- 11 文献調査と分析④
- 12 文献調査と分析⑤
- 13 発表とディスカッション 2 1
- 14 発表とディスカッション 2 2
- 15 まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

適宜指示をする。
 TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめ。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的に研究をまとめる。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 ガイダンスとスケジュールの決定
- 2 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
- 3 研究計画書の作成
- 4 研究計画書の発表
- 5 個人研究発表
- 6 個人研究発表
- 7 個人研究発表
- 8 個人研究発表
- 9 個人研究発表
- 10 個人研究発表
- 11 個人研究発表
- 12 個人研究発表
(研究成果の提出)
- 13 個人研究発表
- 14 個人研究発表
- 15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートする

こと。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

音声の他、ことばの魅力について調査・分析・考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進め、まとめる／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語音声・日本語音声の他、卒業研究のテーマと関連する文献等を調査し、要約をしたり考察をしたりする練習を積む。さらに各自の研究テーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、さらに研究を進める。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 卒業研究について
- 3 文献調査と分析
- 3 文献調査と分析
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 文献調査と分析・考察
- 8 文献調査と分析・考察
- 9 文献調査と分析・考察
- 10 文献調査と分析・考察
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 まとめ
- 15 卒業研究口頭試問

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義が進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で講義される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30% 統括試験70%

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	旅行会社、航空会社、ホテル、海外添乗、海外駐在、通訳ガイド			

授業の到達目標

観光庁のHPや観光白書などを通じて観光に関する専門用語を始め基本的な知識と考え方を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。その上で国際観光の重要性と我が国の現状を認識し、今後の国際交流のあり方や課題等について考察できるとともに様々な対応方針について自らの考えをまとめ、発表することができる。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、OECD、日本の観光庁・JNTOなどのデータを基に、日本と諸外国の観光政策、国際交流の意義を理解する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス(講義計画)
- 2 観光の魅力
- 3 都市コード・空港コード・航空会社コード
- 4 日本の観光政策と受入体制Ⅰ
- 5 日本の観光政策と受入体制Ⅱ
- 6 日本の観光動向Ⅰ
- 7 日本の都市の観光動向Ⅱ
- 8 訪日外国人消費行動
- 9 世界の観光政策と受入体制Ⅰ
- 10 世界の観光政策と受入体制Ⅱ
- 11 世界のMICE動向
- 12 世界の観光動向Ⅰ
- 13 世界の観光動向Ⅱ
- 14 日本の問題点
- 15 総まとめの後定期試験60分

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についての各自からの発表やグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

ニュースなどを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集する。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象となる。

テキスト

各回授業中にプリントを配布する。

参考図書

「観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 パンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 ケータリング事業
- 14 購買とFBCC
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺 郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
WEBトラベルプレゼンテーション			13839	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国内外のトラベルやサービス業関連のWEBページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基いた企画書、日程表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

授業計画

- 1 WEBトラベル・プレゼンテーション概要（テーマの説明と内容の紹介）
- 2 トラベルやサービス業関連のWEBページの分析
- 3 WEBプレゼンテーションの基本条件（テーマ・イメージ・キーワード）
- 4 WEBプレゼンテーションの基本条件（ページレイアウトとデザイン制作フロー）
- 5 プレゼン資料の作成方法と発表のポイント
- 6 WEBプレゼンテーション実習（1）
- 7 WEBプレゼンテーション実習（2）
- 8 WEBプレゼンテーション実習（3）
- 9 WEBプレゼンテーション実習（4）
- 10 WEBプレゼンテーション実習（5）
- 11 WEBプレゼンテーション実習（6）
- 12 WEBプレゼンテーション実習（7）
- 13 WEBプレゼンテーション実習（8）
- 14 WEBプレゼンテーション実習の（9）
- 15 総括&試験

授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

準備学修

事前に指示された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

kamasu@kaisei.ac.jp